

9月のオススメ単行本

志茂田景樹

『人って、みな最初は石ころだもの』

「言葉に励まされる」「心に沁みる」と作家・志茂田景樹さんのTwitterが人気を集めています。

このたび、これまでのツイートをまとめた本が刊行されました。落ち込んでいるとき、誰かを励ましたいとき、くり返し読みたくなる温かな言葉が詰まった一冊。その一部と志茂田さんからのメッセージを紹介します。

◆ 日々

「幸せになるために生きている、という考えもむろんいよ。

でも、僕は自分が生きたという確かな証を刻むために生きている、と考えたいな。生きたという証は不幸を超えていると思うんだ。」



◆ はたらく

「今の仕事が好きなのはそれだけで幸せである。

休息のときも楽しくて仕方がない。自分に不向きな仕事でもきちっとやっている人は休息で安らぎを得ている。働くことが嫌いで厭々やっている人は休息時も気が重い表情をしている。このタイプの人で打ち込んでいる趣味があればそれが天職になるかもしれない。」



◆ 人生



「一回こっきりの人生だからこれ一本でいくと賭けたことに挫折したのか、なるほど。

でも、人生は一回でもその道程は長いじゃないか。挫折はね、靴を一足履き潰しただけなの。

一足だけですまそうなんて人生が怒るよ。さあ、新しい靴を履いてまた目指そうよ。それが生きるということなんだ。」

◆ 恋と愛



「若いうちはね、誰だって自分のことがよく解らないもんだよ。

でも、本気の恋をすると、本物の自分が表れてくる。たとえ実らぬ恋であつても、少しでも自分が解つたのならよしとしよう。さらにもっといい恋をすればね、その本物の自分が磨かれるの。」

◆ 思いやる



「苦しみを与える人もいればその苦しみを癒してくれる人もいる。

でも、苦しみを与えた同じ人が他では誰かの苦しみを癒していたりする。人とはそういうもので、誰もが他の人の表も裏も見通すなんてことはできないの。人はお互い様だから。その人の一面だけ見て信じたり

疑ったりはよくないよ。」

☆ ◆ 自分

「今、大切にしているものはあるだろうか。これから大切にしたいものはあるだろうか。」

今はないけど、大切にしたいものを見つけたらどうか。この三つの気持ちのうちの一つでもあればあなたは自分を大切にできる人です。自信を持っていいですよ。」

◆ 世の中

「寒ければ暖を取ればいい。心が寒々としているときは心が暖かい人達に包まれれば暖まって膨らんでくる。だからね、心が暖かいときは冷えきった人の心を包んであげる。心のお互い様は人間として生きていくうえでもっとも大事なことなんだよ。」



志茂田景樹さんより

僕が「Twitter」アカウント (@shimoda_senju) を開設したのは二〇一〇年四月。はじめは僕がおこなっている読み聞かせイベントの案内やそこのエピソードを紹介していました。

「Twitter」に慣れたころ作家的好奇心から、先が見えづらく閉塞感が漂う今の世の中で、人々が誰にも言えず漠然と考えていることをすくいとれないかという考えが生まれました。人生の指針になりそうなこと、仕事に役立ちそうな創意工夫のヒントを思いつくままに呟いてみました。すると共感・同感のリプライが殺到するようになりました。そこで自分の体験だけではない、周りの人達の喜び、怒り、不安、悩みから材を取り、解決につながるヒントを提示するようになり、目につくヒントを提示するようになり、今度は僕宛の質問、人生相談が駆け込むようになり、増えていきました。相談の文面から推察すると、現代人はあまり重くうけとらないですむちよつとした助言や、優しく包んで背中を押されるような励ましを求めているように感じます。

今回本にまとめたツイートの数々はそのようにして生まれた言葉です。タイトルの「人って、みな石ころだもの」は、人は石ころで生まれ石ころに戻る。ただ、途中で学習や、努力の貴さを知り磨くから輝く。その輝きが次代に引き継がれる。どうせ石ころに戻るんだからそれまでちょっと輝いてみようよ、ということ。この本が多くの方々の癒し系マスコットになってくれるよう願っています。



人って、みな最初は石ころだもの

志茂田景樹

定価1000円(本体952円)

装画 大塚いちお

★志茂田景樹(しもだ・かげき)

1940年、静岡県生まれ。作家。40歳のとき、「黄色い牙」で直木賞を受賞。ミステリー、歴史、エッセイなど多彩な作品を発表していく。1999年より児童への絵本の読み聞かせ活動をおこない、児童作品も発表。近著に「蒼黒の獅子たち」「南海の首領クニマツ」など。

